

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 2階 櫟(くぬぎ)

記入者(管理者)

氏名 栗 育子

評価完了日 平成 19 年 4 月 30 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			『自分らしく過ごす楽しい暮らし』をどんぐりの理念としてあげている。		グループホームどんぐりとしての理念『自分らしく過ごす楽しい暮らし』をかかげ各フロアにパネルをかけている。
			(外部評価)		
		利用者が、自分らしく楽しく暮らしていけることを支えていけるよう、事業所の理念が作られている。	※	さらに、今後、地域密着型サービス提供事業所として地域の中で取組みをすすめていけるよう、事業所で目指していくことについて話し合ってみてはどうだろうか。	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			定期的にかフェリスを行いグループホームどんぐりの理念を確認、意識を深めそれに基づきケアに当たっている。		どんぐりの理念を確認、意識を深めそれに基づきケアに当たっている。またスタッフが週間目標を掲げ具体的に取り組みやすい目標に取り組んでいる。
			(外部評価)		
		管理者と職員は、ミーティング時等で理念に基づく方針と目標を唱和し、意識統一されている。また、週間目標も立て共有し、取り組まれている。			
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			運営推進会議時には事業所の理念を説明して理解していただいている。またご利用家族にも入居時にはパンフレット等にて運営規定、理念等をわかりやすく説明している。		毎月発行している どんぐり新聞 にも、理念・運営方針等について取り入れてみたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホームの前には花を植えたり芝生の庭にベンチを置いたり ぶらんこがあったりと近所の子供たちもよく遊びにきたりする。		夏祭り 花火大会等ホームのイベント時には近隣に声をかけて一緒に参加していただいている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の祭りの時には御輿、太鼓台等に立ち寄りしてもらったりして地元の人と交流している。また小学生のボランティア活動の場にもなったり幼稚園児の御遊戯会も開いて貰っている。 (外部評価) 幼稚園のお遊戯会が事業所で行われる際には、保護者の方達も事業所を訪れる。地域の敬老会にご家族とともに出席される方もいる。		地区の盆踊り大会のときには浴衣を着て参加を勧めてみたいと計画している。 ※ 地域の行事の中で利用者が参加できるような行事等には、積極的に参加していきたいと考えられていた。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 定期的にIADL教室を開催して地域の高齢者の方とのふれあいの場を提供している。		IADL教室において、快適な生活のヒントや手芸等のレクレーションに参加してもらい、地域の高齢者にも暮らしに役立つ情報を提供している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 運営者、管理者、職員は常に運営理念を意識し入居者の生活がより良い状態で過ごせるように考えている。 (外部評価) 職員に評価項目の説明をされ、すべての職員で自己評価に取り組まれた。前回の評価結果を受け、改善計画書を作成し年間を通して取り組まれている。特に、利用者から意見を引き出すための工夫として週一回利用者の居室を訪室する時間を設けておられる。利用者との職員の信頼関係が増し、意見や要望も多く聞かれるようになった。		外部評価後、指摘をいただいたことに対し、全職員と話をする機会をつくり、各項目に対し方針を立て実践している。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			運営推進会議では問題があれば当日の議題の一つとして相談したり評価をうけたりして、サービスの向上に生かしている。		運営推進会議において、いただいた意見をスタッフミーティングに持ち帰り、検討する機会を持つよう心がけている。
			(外部評価)		
			運営推進会議時には、利用者の暮らしの様子や職員の取り組みについて報告されている。	※	さらに、運営推進会議を重ねていかれるごとに、出席者の方達から意見等が聞けるよう、取り組みを工夫していられることが期待される。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)		
			ふれあい相談員の方の訪問時には積極的に話しあったり情報の交換をしている。		ふれあい相談員のかたには特に積極的に情報を頂いている。
			(外部評価)		
			現在、市とかかわるような機会は少ない。	※	今後、市の担当者をホームのイベント等にお誘いすることも検討されていた。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			現在利用されている利用者の中には、特に必要性のある方がいらっしゃることもあり、余り十分に話し合う機会をもてていない。		今後、後見人制度の研修会等にも、参加する機会をつくっていききたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			法人の施設合同で勉強会を開催して高齢者虐待防止関連法等講習しており、意識を深め防止につとめている。		今後さらなる理解を深められるよう、事業所外研修等にも、参加する機会をつくっていききたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) グループホーム入居時の説明をするときはパンフレット、書類等で詳しく説明しており十分に理解してもらっている。		当事業所の利用のみならず、入退居時共に、居宅ケアマネージャー等とめんみつに連絡を取り、利用者の処遇に不利益の無いよう援助に努めている。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホーム玄関には苦情箱（鍵がかかるもの）を設置しており苦情、意見があればいつでも投函出来るようにしている。またいつでも苦情、不満があれば管理者や職員が口頭で何うようにしている。		利用者からの不満苦情があった場合は内容をよく聞いて運営推進会議等に意見を求め、より良い運営が出来るよう努力している。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月1回どんぐり新聞を発行しておりホームでの生活、行事が分かるよう入居者の家族に郵送している。		どんぐり新聞等にも、新人スタッフの顔写真・プロフィール等を取り入れ、早くなじみの関係が作れるよう心がけていきたい。
			(外部評価) ご家族の来訪時に、利用者の生活の様子をお話されている。	※	今後、さらに、利用者一人ひとりの暮らしぶり等を、お手紙で報告できるよう、取り組んでいきたいと考えられていた。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホーム玄関には苦情箱（鍵がかかるもの）を設置しており苦情、意見があればいつでも投函出来るようにしている。またいつでも苦情、不満があれば管理者や職員が口頭で何うようにしていて積極的に改善したり反映したりしている。		苦情や不満があれば、直接意見をいただける様 よりよい利用者との関係を作っていきたい。
			(外部評価) ご家族の来訪時、積極的に声かけをされ、お顔を見ながらご家族の意見や要望はないか聞いておられる。又、遠くにお住まいのご家族等には電話で聞くようにされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎週定期的にカンファレンスを行い意見をきいている。		意見や問題点が高まる際、いつでも意見を述べられる人間関係を構築できている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の日々の生活にあわせた勤務表で勤務している。		経営者も現場によく顔を出し状況を良く理解してくれており柔軟に勤務体制をつくってくれている。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 常に利用者への支援に不備が無いように職員の配置をしているが万一退職者があっても事前に補充をするようにしている。 (外部評価) 職員は、2～3年に一度、法人内（老人保健施設・デイサービス・グループホーム）で異動することもある。利用者は、老人保健施設の大浴場やリハビリ室を利用され、合同行事の機会等に、併設施設の職員と顔馴染みとなっている。		利用者の行動範囲が制限されないよう、併設施設に行った際にも、ホーム同様になじみの関係が出来るよう経営方針の一つとして配置転換を行っている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に法人全体の勉強会に参加したり、外部の研修を取り入れるよう計画しており順次職員を参加させる予定。 (外部評価) 外部研修は、年間計画を立て、職員個々の力量に応じて参加できるよう取り組んでおられる。研修受講後には、研修レポートを提出するようになっており、すべての職員で共有し、スキルアップに努められている。		今後は、職員の段階に応じて施設外研修の取り入れについても検討していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			他事業所との交流は、今の所ほとんど無い。		今後、同事業所間でも交流する機会がつかれないか運営推進会議等において、四国中央市に提案してみる。
			(外部評価)		
			現在、法人内の事業所との交流はなされているが、地域の同業者と交流するような機会は少ない。	※	地域の他の事業書の方達とのネットワーク作り等、さらなる事業所の質を高めていけるような取り組みが期待される。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			法人の所有している保養施設等の利用をすすめている。		イベント等の後には、打ち上げとして親睦会を企画している。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			勤務状況は把握し勤務評定に反映しており、その後の実績として反映している。		賞与を支給する際には、職員の良く努力している所、実績等について、話し合いをする機会を持ち、出来るだけ向上心を持ちながら仕事出来るよう努めている。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			スタッフができる限り訪室してお話を聞いたり相談に乗ったり本人の意向を聞くようにしている。その情報を計画作成担当者に報告し、より良いプランを作成するよう努力している。		今後も今以上に、利用者との信頼関係が強くなるよう、努力していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居利用の問い合わせや相談にこられたときには良く事情を聞いたり不安なこと、求めていることを聞いて相談に乗っている。		ご家族のみの意見によらず、居宅担当ケアマネジャーとも、より密接に情報交換が出来るよう努めていきたい。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明したり介護保険の内容等も分かりやすく説明している。		事業所として、出来ること・出来ないことを明確にし、必要な援助は何か？どのように他のサービス利用に引き継ぐかと言ったことも、今後の勉強会の題材として取り入れていきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人が馴染めるまで週末ごとに自宅外泊したりして徐々に慣れてもらい家族の訪問回数も頻繁にお願いしたりして早く馴染めるよう工夫している。 (外部評価) 入居前には、ケアマネージャーや計画作成担当者等がご自宅や病院等へ出向き、話し合っておられる。入居されてしばらくの間は、ご家族に頻繁に来訪いただいたり、外泊されたりしながら、徐々にホームでの生活に慣れていただけるよう支援されている。		併設の通所サービスを利用されている利用者が、入居される場合は、レクリエーション等にも参加してもらえよう努めている。また、IADL教室にも参加してもらい、どんぐりへの理解度を深めていってもらえるよう努力している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 入居者の得意な事を教えてもらったり、一緒に楽しんだり毎日同じ家族のような関係で時には子になったり、時には孫になったりと思えるような関係をもっている。 (外部評価) 大正琴の練習時には、職員も利用者と一緒に参加し、習われている。利用者同士のトラブル時には、そばでしばらくの間一緒に過ごす等、ダメージにも配慮して支援されている。	※	大正琴教室等を通じ、職員・利用者共に練習する機会をつくるなどし、喜怒哀楽をともに出来るよう努めている。 職員は、身体ケアはもちろん心のケアも出来るよう、さらに利用者との信頼関係作りに取り組みたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 可能な限り通院介助をお願いしたり、洗濯をお願いしている。その事により本人とのつながりを保ちまた職員とのつながりもうまれてくる。また年間の行事があるときには家族の参加も呼びかけている。		年間行事のみならず、職員と家族が話し合える機会を出るだけつくり、自宅においても困っていることや悩み事を共有できる様、よりよい関係をつくっていききたい。
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ホーム内での出来事や状況をご家族に連絡して、安心してホームで暮らしている事を把握しておいてもらう。		利用者及び利用者家族の、悩みや家族関係等の情報も全職員が十分理解し、職員によるムラが無い様、努めていきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の知人、友達が訪門された時は快く歓迎してまた訪ねて下さることを願う。		出来るだけ本人の習慣や馴染みを大切にできるよう、今後更なる情報収集にも努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) スタッフが常に状況を把握して良い関わりがもてるよう声かけしたり、間に入ることにし和やかな雰囲気作りに努めている。		原則ユニットとして生活を送ってもらっているが、食事やレクレーション時には、他のユニットの利用者ともコミュニケーションがとれるよう努めている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 同一法人の運営する、医療サービス・施設サービス・他の居宅サービスを提供することにより、総合的にサポートする環境を整え、退居後の支援も怠りの無い様努めている。		年間行事には、参加していただけるようであれば、参加してもらえよう努めていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			ケアマネや計画作成担当者が本人の意志や意向を聴いて出来る限りプランに反映している。		事業所として、対応できない場合には、気軽に家族の援助を受けられる様、家族との関係をより構築していきたい。
			(外部評価)		
			職員が利用者個々の居室を訪ね、話し合う時間（20～30分位）を設けておられる。会話の中から職員が気付いた事を「訪室記録」に随時書き込み蓄積し、職員で共有されている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			入居利用前の本人の生活や生き方をケアマネまたは計画作成担当者が聞き取りそれをスタッフ全員が把握していてその人らしい生き方を尊重するよう努めている。		レクリエーションや個別の会話などを通じ、更なる生活歴や馴染みの暮らしについて、聞き出せるよう努力していきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			本人の毎日の健康状態を良く観察、把握しておきそのペースにあうよう過ごしていただいている。		医師・理学療法士等との、ミーティングの機会を設け多角的に、利用者の有する能力について理解していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			定期的にかフェリスを行っているが毎回家族、関係者等の参加が難しく、よりよく暮らすことが出来る介護計画がつくられているかどうかは、疑問が残る。		定期的にかフェリスを行っているが毎回家族、関係者等の参加は難しく今後の課題として考えていきたい。
			(外部評価)		
			介護計画は、ご本人・ご家族・職員の他、母体病院の医師や理学療法士の意見も反映し作成されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			対応できない変化が生じた場合には、併設病院・施設管理者・家族等と相談し、本人に最適なサービスについて検討している。		グループ内の意見にとどまらず、外部の意見も取り入れて対応していきたい。
			(外部評価)		
			介護計画は3ヶ月に一度見直しされていたが、十分な目標達成が出来にくく、期間を6ヶ月に延長されている。ご本人・ご家族に変化のあった時等は、随時見直しされている。	※	さらに、今後、介護計画についての評価やモニタリングを行なう時間を設け、職員で話し合いを行うよう、計画を立てておられた。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			日々の記録は出来るだけ頻回に記録し状況を細かく記載するよう心がけており、職員は全ユニットを通してパソコン上で情報を取り入れることが出来るようにしている。		より細かい利用者への観察力がつくよう努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			法人所有の施設（リハビリ機器・入浴装置・福祉車両等）を、そのときの利用者等の状況や要望にあわせ、柔軟に他部門と連携しながら支援している。		法人外の他事業所とも、良い関係を構築し共同で互いの利用者の利便性が向上できるよう、検討していきたい。
			(外部評価)		
			法人施設のリハビリ器具や特殊浴槽等が、利用者の状況に応じて利用できるになっている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関等とは連携を取り、ホーム内の問題点や、要望があれば気軽に協力を依頼出来る関係を構築できており、支援を依頼している。		今後も引き続き同様に支援していただけるよう努めていきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他事業所職員との話し合いの機会ももてていない。		今後の課題として、出来るだけ他の事業所とも連携がもてるよう、包括支援センタ職員にも相談していきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センター職員の訪問時等、適切なアドバイスをいただいている。		今後、長期的な支援についても意見交換をしていきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接しており、いつでも対応できるようになっている。また本人希望の眼科、歯科等はいずれも受診できるよう支援している。 (外部評価) 希望の医療機関を受診されており、ご家族や職員が同行されている。又、母体病院の看護師が毎朝事業所に来訪し、利用者個々の健康状態をみてるようになっている。		出来るだけ以前からのかかりつけ医との関係も、切れないよう意識しながら対応していきたい。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 併設病院には専門医がおらず、専門医の受診支援等は不十分である。		理事長を通じ、相談にのってもらえる認知症専門医を紹介してもらえないか、検討していく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 法人の施設として栗整形外科病院が隣接しておりいつでも対応できるようになっている。また病院の看護婦が入居者の健康管理をしている。		今後も同様に、看護職員の支援を継続していきたい。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 法人内医療機関との連携はとれているが、他医療機関との連携はあまりとれていない。		他医療機関との連携についても、今後協議していきたい。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 現在の所、法人としては、同ユニットの、他の利用者との関係等を鑑み、終末期の対応は併設病院並びに併設施設にて対応することとしている。重度化した際は、本人・家族・医師・ケアマネージャ等と話し合いの機会を持ち決定している。 (外部評価) 要介護3までの方が入居対象者となっている。入居後、状態等についてご家族と話し合いを行い、状態に応じて病院や施設を紹介しておられる。		現在の所、利用者及び利用者家族の中には終末期においては、当グループホームより併設医療機関での対応を望まれる方しかいないが、今後対応を望まれる方が出てきた場合にどのように対応するか、協議する機会を定期的に持っていきたい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化・終末期への対応は、同一法人内の他の医療・介護サービスにて対応することとし、利用者及び利用者家族には安心していただいている。事業所として出来ること・できないことは、ケアカンファレンス等に、法人医師・理事にも出来るだけ参加してもらい、チームとして支援している。		現在の所、利用者及び利用者家族の中には終末期においては、当グループホームより併設医療機関での対応を望まれる方しかいないが、今後対応を望まれる方が出てきた場合にどのように対応するか、協議する機会を定期的に持っていきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 法人内の申し送りはもちろん、他の保険者への転居の際も、情報交換や保険手続きについての指導も行い、スムーズに利用者が新しい環境に適応できる様努めている。		今後も、スムーズに対応できるよう情報交換を十分に行っていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価)		
			個人のプライバシーは損ねることなく尊重している。		今後も各職員が、より注意し対応していけるよう、勉強会にも取り上げていきたい。
			(外部評価)		
			トイレが居室内にある。職員は、排泄の介助時、居室のドアを閉めるようにされている。また、職員同士で利用者の話をするような時には、声の大きさに気を付けられていた。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価)		
			本人が事態を把握して納得出来るよう、何事もよく説明したり理解して貰えるような支援している。		各職員の、説明能力等が向上するように努めたい。
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)		
			本人の毎日の健康状態を良く観察、把握しておきそのペースにあうよう過ごしていただいている。		個々の利用者のペースは大切にしなければならないが、本当にそうすることが利用者にとって良いことなのかどうか考える機会を、つくっていきたい。
			(外部評価)		
			職員は、ご本人のペースを大切に支援できるよう心がけておられ、出来ることは出来るだけご本人にさせていただけるよう、見守っておられた。レクリエーションを行うような時にも、利用者に行うことを選んでもらっている。		

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時は自分で洋服を決める。季節に合わせた服を選ぶようにスタッフがアドバイスするときもある。美容院、散髪は行きつけのところに自由に行ったり月4回地元的美容室から出張してくれるのでそこを利用することも出来る。		併設の通所サービス時にメイクアップ教室が好評であったようなので、当ホームでも検討していきたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎週給食委員会を開き入居者の好みや季節の献立を考えている。また材料の下ごしらえや調理も入居者の方と一緒にすることがある。 (外部評価) 職員は、日頃の会話の中から利用者個々の好みや食べたいものを探っておられ、給食委員会時に献立を立てておられる。食事の準備や片付けは、出来るだけ職員と一緒にするようにされている。		より食事が身近なものとなるよう献立から買い物まですべて任せてしまう曜日を創ってみてはどうか検討してみたい。 ※ 事業所では、季節行事の食事を盛大に行うことを検討されていた。又、日々の食事時にも、利用者が食事の支度や片づけを職員と一緒に出来るよう、取り組みたいと考えられていた。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お花見イベントの時などにはお酒をすすめたりしている。また飲み物、おやつは自由にしているが身体的に不適切な方には出来るだけ度を超さないよう管理している。喫煙も火災の問題を抱えることになるので指定場所以外では吸わないよう管理見守りを強化して支援している。		今後も出来るだけ、本人の希望に添えるよう支援していきたい。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 現在どんぐりではリハビリパンツのみで定期的にトイレ誘導に声かけしたり、尿汚染等があれば即交換させてもらっている。		今後も、本人の自立性を高められるよう支援していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			準温泉の大浴場、個別浴、シャワー浴と本人の希望によって選択できるように入浴を支援している。		病状的なことも鑑みながら、出来る限り本人の意向に添えるよう支援していきたい。
			(外部評価)		
		夜間に入浴をされる方もおられる。ご本人の希望により、併設老人保健施設の準温泉も利用されている。			
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			トイレ付きの個室で自由になれて、夜間でも安心して睡眠ができるように配慮している。		個々のペースを大切にしながら今後も支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			ホーム内でのレクリエーション等の参加をびかけて楽しく過ごせるよう支援している。詩吟、手芸、陶芸、音楽療法など自由に参加している。できあがった作品で作品展をしたり皆さんの力作を評価しあったりして入居者同士で交流を深め、とても楽しみにしている。		今後もよりいっそう楽しく生きがいのある生活を続けていけるよう、様々なレクリエーションを提供していきたい。
			(外部評価)		
		懐かしい映画の鑑賞会等を開催し、利用者個々が楽しむことができる機会を多く設けておられる。又、お花や野菜のお世話をされたり、広告紙でゴミ袋を折り、事業所内で使用しておられた。	※	さらに、今後は、市民講座の参加等、利用者一人ひとりの興味のあることにも、個別に取り組んでいきたいと考えておられた。	
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			基本的には自由に所持してもらっているが、認知症が進んでいる方には置き忘れ、物盗られ妄想とかがあるのでできるだけ少額を所持していただいている。お買い物デーには買い物の楽しさ、お金の認識を自覚していただくためにもおやつ等の買い物、支払いは自分ですよう支援している。		今後も本人の判断能力に応じ、お金を使う機会を創っていききたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			定期的に外出、お買い物日をもうけグループで外出している。また天気の良い日などには近くの運動公園や、紅葉の季節には紅葉ドライブにも行くことがある。		スタッフも時間の合間を見計らい、柔軟に対応できるよう心がけたい。
			(外部評価)		
			月一回買い物等に出かけられる他、天気の良い日には、少人数でドライブや夕食・近くの運動公園等にも出かけておられる。	※	近々セルフサービスのうどんを食べに行く計画がある。今後、利用者が行きたいところへ出かけてみるような機会作り等も考えておられた。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			利用者の家族との外出は体調の許す限り自由にでかけていただいている。スタッフが対応できる範囲で要望にも応えている。		スタッフの支援はもとより、家族とのつながりも大切にし、支援していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			自室に電話を引くことが出来るように設備しており、各フロアに公衆電話を設置し、いつでも自由に電話連絡ができるようになっている。また手紙、郵便物は手作りポストを置いているのでそれに入れるとスタッフが投函するようにしている。		今後は、急ぎ電話に出られない利用者に対し、ホーム専用の携帯電話設置を検討してみたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			ホーム内へは自由に入出入りできるので、いつでも気軽に訪問していただけるようになっている。		面会時間の設定についても、弾力的に対応できないか検討する。

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的な法人内勉強会やケアカンファレンスにて周知 していて、身体拘束をしないケアにとりくんでいる。		情勢にあわせた勉強会を今後も検討していきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的な法人内勉強会やケアカンファレンスにて周知 していて、玄関に鍵をかけないケアにとりくんでい る。 (外部評価) 日中玄関は、開放されている。		今後、認知症の状況が進んできた場合の対応方法につ いて、検討していきたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しなが ら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握 し、安全に配慮している	(自己評価) 廊下に不必要なものや転倒時に危険なものを置かない よう徹底すると共に、定期的に入居者との会話、状況 把握をして安全に過ごしているか確認している。		今後も安全管理については、ハード面を含め定期的 に、カンファレンスを開いていきたい。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 夜間包丁等共有物品の管理については、職員が行い、 私物に関しては、家族との話し合いのもと、個々のレ ベルにあわせて随時対応している。		今後も、家族を含め対応方法を検討していきたい。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を通じ知識の向上に努めると共に、専門職の意 見等も参考に利用者一人一人の状態にあわせ対応して いる。		今後も、継続的に勉強の機会を持っていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 法人全体で定期的に救急訓練等を行っており、万一の時には病院との連絡網もはっきりしている。		今後も、各状況に応じスムーズな対応が出来るよう訓練を行っていききたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 法人全体で定期的に救急訓練等を行っており、万一の時には病院との連絡網もはっきりしている。また定期的に避難訓練や防火訓練も行っている。 (外部評価) 法人内合同訓練を年二回実施されている。		地域との連携は、十分に行えておらず、今後は地区の防火訓練への参加も検討していききたい。 ※ さらなる利用者ご家族、職員の安心安全のための取り組みをすすめていかれることが期待される。又、地域の協力を得られるための取り組み等もすすめていかれてほしい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) その人にあったような環境整備をして安全に暮らせるような見守りを行っている。		今後も、対応策については随時話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや訪室や対話にて体調管理をしている。また異変があった場合には速やかに隣接の病院にて対応するようにしている。		今後も、状況に合わせスムーズな医療サービス提供に努めていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人個人の服薬ファイルを作っている。職員はいつでも回覧出来るようにして、服薬の支援と症状の確認に努めている。		今後も、新規服薬が必要となった場合、薬の目的・副作用・用法等についても、きちんと申し送り出来るよう努めたい。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 週1回の給食会議にて便秘予防に効果のある献立を取り入れている。還元水の飲用をすすめたり、りはびり散歩などに誘ったり、出来るだけ身体を動かすよう支援している。		今後も、食事面だけでなく出来るだけ活動的に暮らすことで、服薬に頼らない排便が行われるよう支援していきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後には個人的には管理できないが定期的に口腔ケアに取り組んでいる。		利用者一人一人の口腔状況が把握できるよう、歯科医の意見を取り入れながら、検討していきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の時は必ず職員が同じテーブルについて食事をしている。楽しく会話をしながら、さりげなく声をかけてバランスよく食べていただけるよう支援している。また毎食後には食事量のチェックを行い体調管理に役立てている。水分確保には還元水の飲用をこまめにすすめている。 (外部評価) 旬の食材を使った食事となるように献立を立てておられる。ホームでは活性水素の入った還元水を利用者に飲んでもらっている。		より状態把握のため、具体的な栄養量・水分摂取量についてもアセスメントしてみたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防マニュアルに基づき、対応している。		今後も併設医療機関の支援のもと、対応していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日調理用具を消毒し、常に台所、調理器具の衛生管理を心がけている。食材の購入に当たっては新鮮な物の購入に心がけ、衛生的に保管出来るように管理している。		今後も引き続き、衛生管理に気を付け対応していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前にはプランターに季節の花作りを、芝生の庭にはベンチもあり気楽に出入りできるような工夫をしている。		玄関周囲に利用者の作品等を展示し、今後も安心して出入りが出来るよう工夫していきたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホームの内部や居室は民芸調の雰囲気です。自宅にいるような落ち着いた内装にしている。また玄関には季節毎の飾り付けをして入居者の目を楽しませている。 (外部評価) 玄関や居間等には、季節の草花が生けられていた。又、民芸調の家具や飾りで、「我が家らしい」雰囲気作りの工夫をされている。		今後も食材においては、旬の物を使用したり、季節感のあるものを飾ったり、利用者の作られた俳句を飾ったりと、出来るだけ心地よく過ごせるよう支援していきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下にソファを置いたりして気の合った同士でお喋りするコーナーをつくっている。またマッサージチェアも置いてあり、気楽に一人のんびりとくつろぎながらマッサージすることもできる。		今後も、利用者のペースで居間で過ごすことが出来るよう、検討していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			入居者の使い慣れた物、家族の写真、思い出のある品物等を配置して暮らしやすく工夫している。		今後も、生活感が失われないよう注意しながら対応していきたい。
			(外部評価)		
			居室には、使い慣れた家具や椅子等を持ち込まれている部屋もあった。仏壇・趣味の品・ご家族の写真、又、手紙等も整理されてあった。趣味の編み物等の手仕事を楽しまれる方もおられた。		
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			スタッフが訪室の度に換気、温度調節は配慮している。		今後も、継続して対応していけるよう努めたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			建物内部はバリアフリーになっていて手すりの設置により、安全に自立した生活が送れるように工夫している。		利用者の状態にあわせ、歩行器・車椅子等の備品購入を随時対応していきたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			一人一人の出来ることと出来ないことを職員が把握し、その人の能力に応じた作業に参加してもらっている。職員が温かく見守り、励ましたり応援したりしてその人が自立して暮らしていけるよう支援している。		今後も、利用者の状態にあわせ、支援していきたい。
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			季節毎に玄関前のプランターの花造りをみんなで楽しんだり、自室のベランダでは各自の鉢植えを置いたりして楽しんでいる。		消防署との連携を図りながら、随時対応していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の 2 / 3 くらいの 3 利用者の 1 / 3 くらいの 4 ほとんど掴んでいない	職員は常に入居者のかたとの会話をたいせつに考えていて、想いをくみとるようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に 1 回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	職員は、毎食時には必ず同じテーブルにて楽しく食事をしたり、食後に団らんのじかんをつくっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	食事は規則正しく時間を決めているが、他のレクリエーション等は自由参加としている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	職員が様々な場面で支援すると、明るい表情でお礼を言ってくださったり 楽しく会話
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	日中の職員体制を手厚くしており、よほどの遠くでなければ対応できている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	医療機関が併設しており、いつでも対応できるようにしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない	日中の職員体制を手厚くしており、よほどの事でなければ対応できている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の 2 / 3 くらいと ③家族の 1 / 3 くらいと 4 ほとんどできていない	良く訪問してもらえる家族とは、信頼関係も構築できているが、遠方の家族とは、十分とはいえない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	近隣の方には、ホームの理解がまだ不十分であり、通いの場にはなっていない。

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 ③あまり増えていない 4 全くいない	特に変わったようには感じられない。
98 職員は、生き活きと働けている	(自己評価) 1 ①ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護に対し、生きがいを感じ生き生きと働いている。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) 1 ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常的に笑顔が見られ、満足していると思う。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) 1 ①ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の方と話をすると、ほとんどの方が満足している様思えます。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

○グループホームの経営主体が整形外科病院であるので、各人のレベルにあわせてリハビリが出来るよう隣接の施設でのパワーリハビリ等に取り組んでいる。また日常的には手芸として陶芸をやっていて、作品作り時の入居者の顔はとても楽しそうに生き生きとして、焼き上がった作品を展示したら何度も何度もみて楽しんでいる。最近では皆さんとても意欲的で、次回は何かを作ろうかと希望も提案してくれたりしている。

○レクレーションでは大正琴の取り組みをしていて、最初は消極的だった人も職員がレベルにあわせて指導をしているので一生懸命練習している。強制でなく自発的に皆さん楽しまれており、毎日の練習で皆さんの表情がとても明るくなったように思います。

○どんぐりでは他に月2回音楽療法も行っていてプロの音楽療法士の先生が一人一人のプログラムにあわせて楽しく歌ったりお話したりする時間も作っています。すべて自由参加でやっていますが、殆どの方が喜んで参加されていて、心と体のリハビリを職員と一緒に楽しく取り組んでいます。